



— 巻 頭 言 —

医療を取り巻く変化に対応すべく核医学専門技師

北里大学病院 菊 池 敬

今年の初冬にアメリカでは、変革：change を提唱したオバマ新大統領が誕生いたしました。日本でもこの夏の衆議院選挙では、半世紀ぶりに第1党が変わり、民主党を中心とする連立政権が誕生しました。脱官僚政治のマニフェストを掲げ、支持率70%を超えていることから、政治不信や経済低迷、高齢化社会や地球温暖化の不安に対し、国民は不安を抱きながらも大きな期待を込めているところだと思います。医療・福祉面では早々に後期高齢者医療制度の撤廃が明言されましたが、この急激な高齢化や経済の低迷状態、健康保険のオーバーフロー、医療技術の進歩、それに伴う国民の意識の変化など、医療制度を取り巻く環境はこの数年大きく変化していますが、新政権ではより大きな医療制度改革も断行されると言われています。我々核医学技術に携わる立場を考えてみますと、求められるものは高い安全性、高い医療技術、高い満足度と言えるでしょう。それには、EBMに基づき標準化された高い水準の診療情報の提供できる体制、装置管理や放射性薬品の安全管理の体制の構築が当たるのではないのでしょうか。それには専門性に富んだ知識と技術の習得とその維持が必要ですが、社会的にもコンセンサスが得られた認定制度が必要となります。平成18年には「わが国の核医学検査技術の国際的な同等性を確保するとともに、最新の医療技術に対応した最善の画像情報を標準的に提供し、安全を担保することで、国民の福祉と社会の発展に寄与することを目的」とした核医学専門技師認定機構が発足し、現在、多くの専門技師が中心となり、この体制にむけて整備を進めているかと推察します。今後は、この専門技師が医療法や診療報酬の面からもその医療制度の中で果たすべく責任と役割を社会的にきちんと認知されるためには、行政への働きかけも今後必要であり、それには本学会がイニシアティブを取るべく、その準備をすすめるための企画委員会が組織されています。一方で、本学会では、技術者を対象とした認定専門技術者制度を早くから設け、認定された多くの核医学専門技術者がその専門性を活かし、診療、研究、教育の環境で中心になって活躍されております。しかし、本学会では専門技師認定機構を他団体と共に構成していることから、今後中心となってその責任と役割を確立する体制を社会に発信して行かなければならない使命を負う一方で、独自で専門技術者制度を設けて維持させて行くことについては、今後、専門性への体制整備のブレや混乱が懸念されるところであり、現在の専門技術者制度の方向性を明確に示さなければならない時期に来ています。会員の皆様におかれましては忌憚のないご意見等を頂ければ幸いです。

本学会はNPO（特定非営利活動）法人となりましたが、社会ならびに医療技術を提供する環境の中で、貢献的活動において健全な発展を促進し、国民に取って安全で高度な技術を提供するという公益な増進に寄与するという重要な使命をもっております。会員の皆様におかれましては今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。